

【積算資料】配管土工の標準化積算

2023/7/31

第1. 総則

配水課

1. 適用範囲

主体工事が呼び径300mm以下の水道管布設工事及び撤去工事において、設計図書に「配管土工の標準化積算」によるものと明記されている場合に適用する。配管土工の標準化積算が適用される工事の根拠数量は本積算資料により算定する。

なお、工種内訳の数量に増減が生じた場合においても原則変更設計の対象としない

2. 配管土工種別の一覧及び工種内訳

土工種別	単位	標準化積算（工種内訳）
試掘土工	箇所あたり	舗装切断、舗装版破碎、土砂床掘、土砂埋戻し、舗装仮復旧、軽量銅矢板、土砂運搬（現場～仮置場）、積込、土砂運搬（仮置場～現場）
管路土工	mあたり	
仮配土工（布設・撤去）	mあたり	
給水付替土工	箇所あたり	
ストッパー土工	箇所あたり	

※ As殻やCo殻、土砂の運搬・処分については別途計上する

3. 配管土工標準化の適用

(1) 標準化積算の舗装種別について

舗装種別	名称	代表断面	包含断面	備考
	幹線道路	2号	特2号、特2-1号、2号、2-2号、特3号、特3-1号	車道部・As舗装15cm以上 仮復旧As10cm以上
	一般道路（As）	3号	3号、4号、（5号）	車道部・As舗装15cm未満 仮復旧As10cm未満
	一般道路（Co）	7号	6号、7号	車道部・Co舗装
	歩道（As）	10-1号	10号、10-1号、（5号）	歩道部・As舗装
	歩道（タイル系）	9-1号	8号、8-1号、8-2号、9号、9-1号、9-2号	歩道部・Co,ブロック舗装
	未舗装	11号	11号、11-1号	開発団地等

上記の6種類の代表断面を標準舗装種別とする。

(2) 標準化積算の土工種別について

土工種別	断面種別	W(m)	H(m)	L(m)	単位
					箇所
試掘土工	矢板なし	0.8	1.2	1.0	箇所
	矢板あり	0.8	1.65	1.0	
管路土工断面	50(PE)	0.6	0.65	m	m
	75~200新設	0.6	0.95		
	300新設	0.7	1.2		
	75~300取替・撤去	0.8	1.2		
	50(PE)、矢板あり	0.9	1.65		
	75~200新設、矢板あり	0.9	1.65		
	300新設、矢板あり	0.9	1.65		
仮配土工断面	布設	0.4	0.4	m	m
	撤去	0.4	0.4		
給水付替土工断面	1種類固定	0.6	0.7	4.0	箇所
ストッパー土工断面	75	1.2	1.425	1.2	
	100	1.2	1.5	1.2	
	150、矢板あり	1.2	1.55	1.3	
	200、矢板あり	1.2	1.6	1.7	
	300、矢板あり	1.4	1.8	1.9	

※ 矢板はH=2.0mとする。

※ 75~200新設の管控除は、Φ150を基本とする。

※ 75~300取替・撤去の管控除は、Φ150の同口径取替を基本とする。

3. 配管土工標準化の種類別コード番号

土工種別	断面種別	舗装種別				コード番号
試掘土工	2	x	6	=	12種類	V7101~V7112
管路土工	8	x	6	=	48種類	V7201~V7248
仮配土工（布設・撤去）	2	x	6	=	12種類	V7301~V7312
給水付替土工	1	x	6	=	6種類	V7401~V7406
ストッパー土工	5	x	6	=	30種類	V7501~V7530
					108種類	

4. 配管土工標準化の土工種別数量表

各土工種別（コード番号）における個別の数量根拠は別表「土工種別数量表」のとおりとする。